

まちさんぽ 街散歩

横浜

みなとみらい線沿線探訪——横浜

私は横浜が好きだ。なぜかと聞かれても困る。強いて挙げるなら、横浜の街並みと海が好きだから、であろうか。昔は、学校の授業をサボって、よく横浜の海を見に行ったものである。しばらくご無沙汰だったこの街に、来年「みなとみらい線」が開通すると聞き、久しぶりに散歩に出かけることにした。



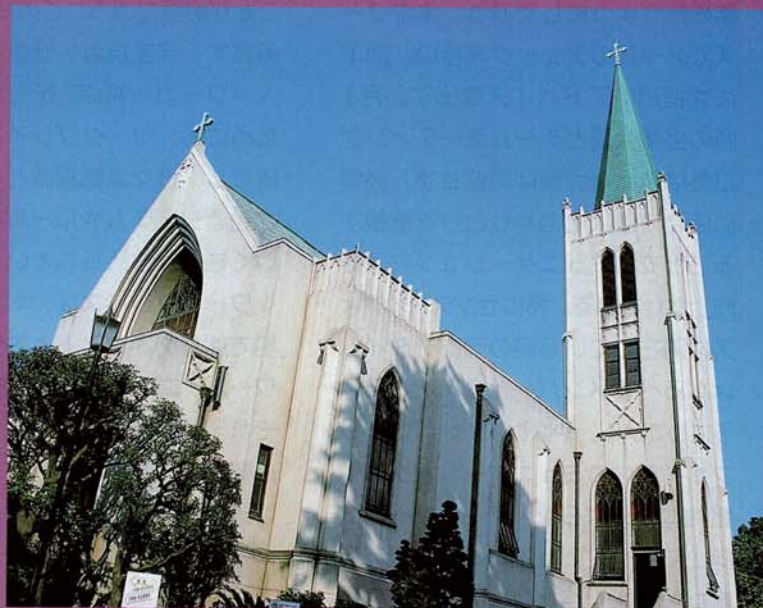
伊勢山皇大神宮

▲桜木町駅西方の小高い丘の上にある神社。伊勢の皇大神宮を勧請したことから「関東のお伊勢さん」と呼ばれ、広く人々の信仰を集めている。1870年の創建といわれ、創建当時は、神社の鳥居や樹木が、港に入る船からも見えたのだという。



カトリック山手教会

▼1862年、フランス人宣教師ジラルドによって、山下町80番地（現在の中華街東門近く）に建てられた横浜天主堂が前身。1906年に現在の山手町44番地に移り、双塔をもつゴシック様式レンガ造りの大聖堂が建てられたが、関東大震災で建物は倒壊。1933年に現在の建物が完成した。

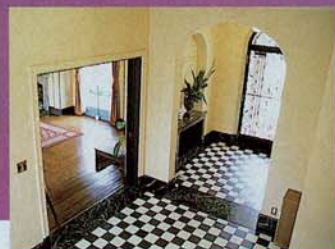


中華街朝陽門

◀今年2月に落成したばかりの牌楼（門）で、中華街最大の門。中華街の東南西北にある牌楼は、風水に基づいて建てられ、それぞれ異なる色と守護神を持つ。東方に位置する朝陽門は青色で、守護神は青龍神。朝日が街全体を覆い繁栄をもたらす、という意味がある。

横浜ランドマークタワー

◀みなとみらい21のシンボルで、高さ296m、地上70階・地下4階建ての日本一の超高層ビル。69階にある日本一高い展望フロアからの眺めは一見の価値がある。同ビルの足元には、旧横浜船渠第二号ドック(国重文)があり、現在はドックヤードガーデンとして利用されている。



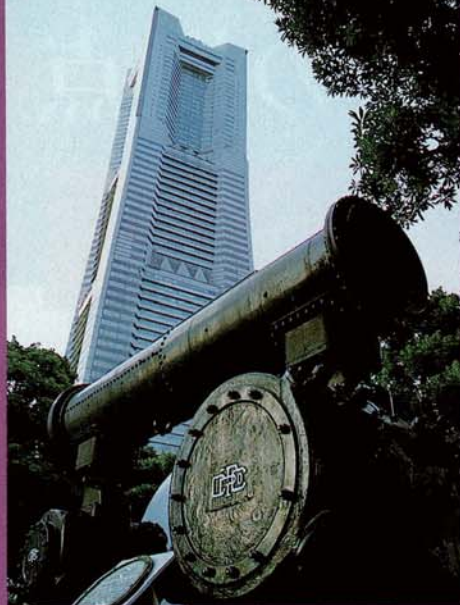
山手西洋館

▶横浜市が保存し、公開している山手西洋館。写真は、2002年から一般公開された元町公園の「ベリック・ホール」(上・中)と、1997年に山手イタリア山庭園に移築された「外交官の家」(下)である。この他に5つの西洋館が公開されており、約3時間程度で見学できる。



▼外交官の家

▲ベリック・ホール



山下公園

▲関東大震災で崩壊した建物の瓦礫で海を埋め立てて整地し、1930年に開園した公園。大さん橋入口から山下埠頭入口まで、約1km続いている。園内には、童謡で有名な「赤い靴はいてた女の子」の像や、西洋理髪発祥の地碑などがある。



▶1911年と1913年に建てられた3階建ての赤レンガ倉庫は、現在、商業施設として利用されている。2号館の北側に整備された赤レンガパーク内では、関東大震災で床や屋根を焼失した旧税関事務所の遺構を、花壇として利用している。

赤レンガパーク花壇



今から約130年前、新橋ー横浜間に日本初の鉄道が開通したとき、横浜駅は現在の桜木町駅にあったという。だからというわけでもないが、今回はここを出発点とすることにした。まず、山側に出て、高架下を横浜方面へ歩く。左手の急な坂が、紅葉坂だ。息を切らせながら坂道を上ると、途中に「伊勢山皇大神宮」の裏参道入口がある。さらに急な階段を上って境内へ。一気に汗が吹き出るが、高台特有の風が心地よい。境内からは、海こそ見えないが、「ランドマークタワー」がひととき大きく見える。考えてみれば、横浜の神社を参詣したのは初めてであり、少し不思議な気分だ。

そこから、野毛坂を通過して野毛山公園へ。ここには、市営の動物園がある。しばし、子供に返って寛いだ後は、みなとみらいへ。いよいよ、海が見えてきた。お決まりのコースだが、まずはランドマークタワーを目指す。69階の展望室からは、横浜の海や街が一望できる。実は、ここから眺める横浜の海が、私はとても好きだ。夜景を見たい気持ちを抑え、世界最高速エレベーターで地上へ。汽車道を歩いて、「赤レンガ倉庫」へ向かう。昨年4月に商業施設として生まれ変わったと聞いたが、足を運ぶのは初めてだ。館内は、家族連れなどでこった返っていて、なんだか落ち着かない。外に出て、改めて倉庫を見上げると、100年以上この地に建つ建物の重みがしっかりと感じられる。「赤レンガパーク」からは、外国航路の大型船も接岸する「大さん橋」が目の前に広がる。

新しく造られた「開港の道」を通過して、「山下公園」へ。ここは、のんびりと海を見られる大好きな場所の一つだ。特に学生時代は、今のようにどこからでも海が見えるというわけではなかったので、ここから見る海は格別だった。

海辺を離れ、「中華街」の雑踏へ足を踏み入れる。ここは、いつ来ても元気な街だ。落ち着きのある関内の中では、異彩を放っているが、そこがまた人々を引きつけるのかもしれない。少し腹ごなしをしてから、「元町」へ。この2つの街にまたがる「元町・中華街」駅が、みなとみらい線の終点になるという。元町商店街を通り、これまた急な汐汲坂を上がる。つくづく、横浜は急な坂が多いと思う。

山手本通りを西へ歩くと、緑の尖塔が印象的な「カトリック山手教会」が見えてくる。少しだけ足を延ばして、最後に、高台にある「山手イタリア山庭園」へと向かう。ここには、国の重要文化財にも指定されている「外交官の家」など、2つの洋館が保存・公開されている。居留地当時の洋風な暮らしが、今でもそのまま続いているかのようだ。

久しぶりの横浜は、何もかもが新鮮だった。それでも、散歩の終わりには、古いものを残しつつ、新しいものと共存する——そんな姿勢を街に感じ、少しホッとさせられた。

参考文献：神奈川県歴史散歩(山川出版社)、「歩く地図Nippon5 横浜・鎌倉」(山と溪谷社)